

【外国語学部】令和7年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

①カリキュラムマップ

新たなカリキュラムの検討を進めていたが、改組・改革の方向性を見直す必要が生じたことから、それに基づく新たなカリキュラムの構築に向けた組織編制の検討を進めた。

②シラバス

カリキュラムマップにおける各授業科目のシラバスと「身につく資質・能力」との整合性を確認し、さらに、14回+オンデマンド授業の導入を踏まえた、シラバスの記載事項の詳細な確認、および修正を行った。

③その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

次年度新規開講科目をカリキュラムツリー、ナンバリングに反映させた。

課題

オンデマンド授業の具体的な実施状況の把握。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

「C」の具体的な作業内容の明確化に向けて、学修成果・教育成果を把握・可視化するための各種調査結果の活用を検討した結果、GPS アカデミック、GPA の分布の推移や学修成果実感調査の結果等を、新たな入学者の多様化、質的な変化に対応するカリキュラム改革、シラバスの精査に活用していくこととした。

課題

各種調査結果等の活用について、関係する各委員会等が定例的に検証する体制・手法を確立することが望まれる。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

(1)アセスメント科目である「Intensive English(A/B/C)IV/専攻●●語IV」の受験率、対登録合格率、対受験

合格率、対登録ポイント平均、対受験ポイント平均などの数値が低下傾向にある。

年度	受験率	対登録者合格率	対受験者合格率	対登録ポイント平均	対受験ポイント平均
2020	95%	89%	94%	2.20	2.30
2021	95%	88%	93%	2.26	2.37
2022	95%	89%	93%	2.19	2.29
2023	89%	83%	92%	1.92	2.11
2024	88%	82%	92%	1.90	2.13

(2)卒業者の約40%が、アセスメント科目である「英語研究演習Ⅳ/English Research SeminarⅣ」「ヨーロッパ言語研究演習Ⅳ」「アジア言語研究演習Ⅳ」の単位を取得していない。

卒業年度	卒業生数	単位取得者数	単位取得率
2023	325	197	60.62%
2024	377	232	61.54%
2025	349	206	59.03%

課題

新たな入学者の多様化、質的な変化により、履修者の単位取得に対する意欲(学習意欲)の低減が見られるとともに、従来の到達目標の達成が難しくなり始めている。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

社会ニーズに合わせた新たな手法を用いる授業科目として、「スマホ・パソコンによる外国語学習」「AIによる外国語学習」、及び「グローバル総合演習」を新設した。

② 課題

アセスメント科目のうち「英語研究演習Ⅳ/English Research SeminarⅣ」「ヨーロッパ言語研究演習Ⅳ」「アジア言語研究演習Ⅳ」について、学修状況の詳細が把握できていない。

5. 学部における教学マネジメントの組織体制を踏まえた教員組織の編制方針の見直しの状況

評価（該当する番号にチェック）

- ☐ ①学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえて実施できた。
- ☐ ②学部における教学マネジメントの検証体制を一部踏まえて実施できた。
- ☐ ③学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえた実施ができなかった。
- ②もしくは③を選択した場合はその理由を自由記述欄に記入

自由記述欄

学部改革とあわせ、教員組織の編成方針の見直しを進めたが、改組・改革の方向性を見直す必要が生じたことから、最小限の文言修正のみを行った。